



第4章 昆虫類

花宮 俊策

佐伯市の昆虫類



はじめに

大分県の南部に位置する佐伯市は、2005年（平成17年）3月3日に佐伯市と南海部（みなみあまべ）郡5町3村が合併して新たに佐伯市となりました。九州の市町村の中では最大の面積を持っています。佐伯市と旧南海部郡の上浦（かみうら）町《佐伯市上浦》、鶴見（つるみ）町《佐伯市鶴見》、米水津（よのうづ）村《佐伯市米水津》、蒲江（かまえ）町《佐伯市蒲江》は、海（太平洋）に面し四季を通じ温暖な地域です。しかし、旧南海部郡の宇目（うめ）町《佐伯市宇目》には、祖母傾（そぼ・かたむき）山系の1605メートルの傾山（かたむきやま・かたむきさん）があり、冬には雪が積もる気温差の大きな地域です。このように、佐伯市は、海拔1000メートルを越す山間部から海拔0メートルの海岸部が同一市内に存在しています。これは大分県では、佐伯市だけに見られる大変特徴的なことです。この地域の特性から、佐伯市内の山間部と海岸部の気温差は大きく、地域や地形に応じた植生が形成されています。昆虫類は、その植生の形態（湿地・草原・山など）や草や木の種類の多さによって種類数が増えるので、佐伯市には、多くの昆虫類が生息しています。そして、その中には、佐伯市でしか見られない（発見されていない）昆虫も少なくありません。また、近年の温暖化の影響か、隣接している宮崎県から、多くの南方系の昆虫が大分県に侵入してきています。今回の報告では、特に近年の北進が著しい南方系の昆虫（チョウ）についての報告と大分県では佐伯市にしか生息が確認されていない昆虫や佐伯市で見られる気になる昆虫について報告します。



● 佐伯市で北進が確認されたチョウ（迷チョウ）の記録

佐伯市では、ここ数年九州南部（宮崎県）からの迷チョウが多く確認されるようになってきました。種としては、ウスキシロチョウ、アマミウラナミシジミ、クロマダラソテツシジミ、カバマダラ、タテハモドキ、リュウキュウムラサキ、アオタテハモドキが北進しています。

以下に、そのチョウ毎の記録を紹介します。

※ヤクシマルリシジミは、1990年以降県南部（佐伯市を含む）においては定着しているの
で今回の迷チョウの記録から外しました。

1, ウスキシロチョウ

大分県では数の少ない迷チョウである。6月以降の季節風によって渡ってきます。

食草：ナンバンサイカチ（ゴールデンシャワー）

佐伯市宇目南田原	19. VII. 2010			
佐伯市蒲江蒲江浦	22. VII. 2010	24. VII. 2010		
佐伯市米水津色利浦	24. VII. 2010			
佐伯市蒲江森崎浦	21. VII. 2011			
佐伯市蒲江波当津浦	19. IX. 2009	21. VII. 2011		

2, アマミウラナミシジミ

1999年にはじめて採集される。

食草：モクタチバナ、タイミンタチバナ

佐伯市米水津宮野浦	29. VIII. 1999	18. IX. 1999	10. X. 1999	
佐伯市蒲江波当津浦	1. XI. 2005			
佐伯市米水津色利浦	2. IX. 2005			
佐伯市鶴見梶寄浦	24. VII. 2010	12. X. 2009	29IX. 2013	

3, クロマダラソテツシジミ

大分県では2009年にはじめて発見された迷チョウで、幼虫はソテツの新芽を食害することが知られている。

食草：ソテツ

佐伯市蒲江畑野浦	16. IX. 2009	17. IX. 2009	10. X. 2009	12. X. 2009
佐伯市蒲江竹野浦河内	17. IX. 2009	19. IX. 2009	1. X. 2009	4. X. 2009
	10. X. 2009	27. X. 2009	7. XI. 2009	1. VIII. 1010
	14. IX. 2010	4. IX. 2010	12. IX. 2013	23. IX. 2013
佐伯市蒲江葛原浦	3. X. 2009	31. X. 2009	4. IX. 2010	
佐伯市蒲江蒲江浦	13. IX. 2009	15. IX. 2009	17. IX. 2009	19. IX. 2009
	1. X. 2009	11. IX. 2010	12. IX. 2010	7. IX. 2013
佐伯市蒲江猪串浦	17. IX. 2009			
佐伯市蒲江波当津浦	11. X. 2010	7. IX. 2013	12. IX. 2013	
佐伯市米水津浦代浦	19. IX. 2009			
佐伯市鶴見有明浦	19. IX. 2009			
佐伯市鶴見中越浦	19. IX. 2009			
佐伯市鶴見羽出浦	19. IX. 2009	7. XI. 2009		
佐伯市鶴見吹浦	19. IX. 2009	7. XI. 2009	23. XI. 2009	23. XII. 2009
佐伯市中央庁公園	17. IX. 2009			
佐伯市中央通り	19. IX. 2009			

佐伯市狩生	19. IX. 2009	10. X. 2009		
佐伯市長島町 1 丁目	17. IX. 2009			
佐伯市上浦浅海井	19. IX. 2009	20. IX. 2009	21. IX. 2009	4. X. 2009
	20. X. 2009			
佐伯市上浦津井浦	19. IX. 2009			
佐伯市上浦最勝海浦	17. IX. 2009	20. IX. 2009	21. IX. 2009	4. X. 2009
佐伯市弥生井崎	23. IX. 2013			

筆者も、2009 年に、旧佐伯市内や佐伯市鶴見、佐伯市蒲江などの多くの地点でクロマダラソテツシジミの卵、幼虫、成虫を確認することができました。そして、クロマダラソテツシジミの幼虫にソテツの新芽が食い荒らされ丸坊主になっているソテツも多く見ました。数頭採集しクロマダラソテツシジミの幼虫を育ててみると、その幼虫の食欲の旺盛なこと、また短期間で成虫になることに驚かせられました。しかし、まだ越冬はできないようです。



4. カバマダラ

トウワタやフウセントウワタから卵、幼虫が見つかる。2009 年に大発生。

食草：トウワタ、フウセントウワタ、ガガイモ

佐伯市鶴見沖松浦	7. X. 1999			
佐伯市米水津色利浦	23. X. 2002	20. XI. 2002	1. X. 2003	
佐伯市蒲江森崎浦	4. IX. 2010	18. IX. 2010	11. X. 2010	19. X. 2010
	3. XI. 2010	14. IX. 2010	19. X. 2010	
佐伯市蒲江畑野浦	20. IX. 2009	11. IX. 2010	10. X. 2010	11. X. 2010
	10. X. 2010			
佐伯市蒲江蒲江浦	11. IX. 2010	14. IX. 2010	18. IX. 2010	
佐伯市蒲江楠本浦	18. IX. 2010			
佐伯市蒲江丸市尾浦	19. X. 2010			
佐伯市蒲江竹野浦河内	19. X. 2010	11 IX. 2013		
佐伯市狩生	20. IX. 2009			

筆者も、佐伯市蒲江畑野浦でフウセントウワタにつく幼虫、蛹を採集したことがあります。この場所では多くの成虫も確認することができました。しかし、この時の幼虫は蛹

にはなりましたが蛹の期間に死亡してしまいました。



5, タテハモドキ

食草：オギノツメ、イワダレソウ、スズメノトウガラシ

佐伯市女島区 22. X. 1978

佐伯市直川新道 27. X. 1989

佐伯市蒲江波当津浦 12. X. 2005 31. VIII. 2009 27. X. 2009 4. IX. 2010

11. IX. 2010 11. X. 2010 19. X. 2010 3. XI. 2010

佐伯市蒲江森崎浦 27. X. 2009



6, リュウキュウムラサキ

食草：サツマイモ等

2006年9月14日に佐伯市蒲江高平山にてはじめて目撃される。

佐伯市蒲江高平山 14. IX. 2006

7, アオタテハモドキ

食草：キツネノマゴ、オオバコ等

佐伯市弥生床木 16. IX. 1991

佐伯市木立岡 20. X. 1991

今回は、佐伯市内で捕獲されたり目撃されたりした6種のチョウ(迷チョウ)について、確認された場所と年月日を「二豊のむし」から調べ、筆者の記録と合わせて報告しました。佐伯市宇目や佐伯市直川(なおかわ)の記録もありますが、大部分が佐伯市蒲江の記録です。このことは、この6種のチョウ(迷チョウ)が、宮崎県から北進して来たからと思われる。また、近年の記録の多さや個体数の増加は、温暖化が影響しているようです。佐伯市は、大分県でも1番南に位置し宮崎県と接しています。この6種のうちカバマダラやクロマダラソテツシジミは、卵や幼虫も市内各所で確認され、また年内の繁殖も確認されています。しかし、冬を越しての繁殖は確認できていません。もう少し温暖化が進むと越冬したこれらのチョウを見ることができるようになるのかもしれない。繁殖のためには食草も必要です。クロマダラソテツシジミの食草のソテツは市内の学校や神社などに多く植えられ、また、個人の庭先にも多く植えられています。また、カバマダラの食草であるトウワタやフウセントウワタは佐伯市蒲江の国道沿いなどでよく植えられており、徐々に周囲に広がっているようです。このことも、近年のカバマダラやクロマダラソテツシジミの個体数の増加に関係しているようです。

今回は、チョウ類の記録を調べましたが、トンボ類なども侵入(北進)してきています。代表的なものには、2006年に始めて確認されたベニトンボがいます。このベニトンボは佐伯市池田や木立の溜池などでは、毎年のように年2回の発生を繰り返してしています。佐伯市木立にある大分県立佐伯支援学校のプールでは、筆者の調査によれば2008年から2010年にベニトンボのヤゴが5月の終わりから6月の始めにかけてのプール掃除の時期に確認され、羽化も確認されています。



ベニトンボ



佐伯市に侵入してきた昆虫には他に、アオマツムシ、アカギカメムシ、キマダラカメムシ、アメリカジガバチ、ブタクサハムシ、ルリモンホソバなどが確認できました。



アカギカメムシ



アオマツムシ



ルリモンホソバ

今後、佐伯市に南から侵入する可能性の高い昆虫としては、キオビエダシャクやリュウキユウベニイトトンボなどが考えられます。温暖化の影響が大きいようです。

● 県内では佐伯市にしか生息が確認されていない昆虫、特記すべき昆虫

1. タイワンツバメシジミ本土亜種

南方系の種で、局地的な分布をする種としてよく知られています。大分県では、日田市、杵築市、大分市(佐賀関)、臼杵市、佐伯市に生息が確認されていましたが、佐伯市蒲江以外では近年の記録がありません。蒲江においてもその生息場所は限られ、筆者も何回か調査しましたがまだ1度も確認できていません。2013年には、その姿を見たとの情報が途切れましたが、2014年に再び姿が確認されたとの情報があり佐伯市蒲江にはまだ生息しています。タイワンツバメシジミは年1回の発生で、発生の時期は9月です。食草は、マメ科のシバハギで、幼虫は花、つぼみ、若い実しか食べません。そして、幼虫で越冬し、翌年の夏から初秋にかけて蛹になることが知られています。

シバハギは、どちらかと言えば珍しい植物ではないので、食草のシバハギがなくて個体数が減ったわけではありません。タイワンツバメシジミのライフサイクルが問題のようです。前述のように幼虫の期間が長いのでこの時期に外部から何らかの影響を受け個体数を減らしているようです。近年の観察から、幼虫の越冬場所はシバハギの近くに生えているススキです。幼虫は、ススキの枯れ葉に包まれて休眠することがわかりました。このことから、シバハギを保護するだけでなく、その周辺にあるススキも大切なことがわかります。近頃の公共の場所の清掃は、綺麗さを求める余り徹底的に行われているような気がしています。雑草は、綺麗に刈られ、片付けられます。これは、①シバハギが花を咲かせる前に刈られる。→タイワンツバメシジミがシバハギに卵が産めない。②シバハギは刈られず、幼虫も越冬のためススキの所に行くことができるが、その後の道路脇の清掃のためシバハギ、ススキともに刈られ、生えていたところは綺麗に片付けられる。→越冬中の幼虫は刈られたススキと一緒に捨てられます。しかし、シバハギとススキは根が残るので翌年も芽を出しますが、タイワンツバメシジミの幼虫は犠牲になり個体数が減少していったようです。道路脇の清掃は、地域の住民や道路を使用する人にとっては必要なことです。タイワンツバメシジミは、保護されなければ、大分県では、すぐに姿を見ることはできなくなるでしょう。佐伯市が、タイワンツバメシジミの生息場所での環境保護(①シバハギの花が咲いている9月の道路清掃はやめる。またはシバハギとススキは刈らずに残す。②冬の道路清掃ではタイワンツバメシジミが見られた周辺の場所のススキは残す。③地域住民に協力を求め環境保全に努めてもらう。④佐伯市の天然記念物に指定する。⑤佐伯市がタイワンツバメシジミの生息環境を守るために公園を作り保護活動をする。)をすれば、絶滅することはないでしょう。絶滅は防ぎたいものです。

2. イカリモンハンミョウ

背中に碇の模様のあることから、この名がついたイカリモンハンミョウは、大分県では佐伯市蒲江の一部の海岸でしか見ることはできません。イカリモンハンミョウは筆者の過去の何度かの調査でも個体数は少ないながら確認できました。しかし、この蒲江の一部の

海岸は、2013年2月16日からの蒲江IC～北浦IC間の供用開始により蒲江波当津ICができ、自動車の利用者にとっては交通の面では大変便利になりました。さらに佐伯IC～蒲江IC間も開通したので自動車の交通量が増え観光客などが増加する事が予想されます。観光客が増加し佐伯市に来ることは大変よいことですが、その陰でイカリモンハンミョウがなくなるのはあまりにも寂しいことです。イカリモンハンミョウは、全国的に見て貴重なハンミョウで国の定めるRDでは絶滅危惧I類に分類されており、現在、大分県、宮崎県、鹿児島県、石川県の4県にしか生息していません。さらに、大分県では佐伯市蒲江の一部の海岸にしかいません。イカリモンハンミョウの分布北限の石川県では、羽咋市や志賀町の海岸に生息していますが個体数の減少が著しかったので石川県や羽咋市、志賀町等が中心になって保護活動が近年積極的に行われています。

その方法とは、①ここには貴重な昆虫が生息していると看板などで周知する。②自動車(4輪駆動車)を海岸に入られないように規制する。③個体数を増やすために幼虫を飼育する。など色々な取り組みがなされています。イカリモンハンミョウが減少しないために、佐伯市も同じようなことを実施してはいかがでしょうか。まずは、看板の設置(貴重な昆虫が生息しているとの)と自動車(4輪駆動車)の生息している海岸への乗り入れ禁止です。自動車が乗り入れることによりイカリモンハンミョウがぶつかり死んでしまうことは少ないとは思いますが、それよりも心配なのが幼虫の住んでいる場所を自動車が踏み荒らし破壊することです。佐伯市と言えば海そして海と言えば船、船と言えば碇、その碇を背中に背負っているイカリモンハンミョウが佐伯市蒲江の海岸から姿が消えてしまうのを避けるのは今しかないかも知れません。



3. アサギマダラ

大型のチョウで、長い距離を渡る(移動する)事で有名なチョウです。佐伯市鶴見鶴御崎(つるみさき)(H24年10月6日)の合同調査の時に岬にあるパノラマ展望ブリッジの登り口の脇に生えているヒヨドリバナに多くの個体が訪れていました。長距離の渡りをす

ることである有名なこのチョウを大分県姫島のように呼び寄せるために、この場所のヒヨドリバナを増やしてアサギマダラに蜜をあげてはどうでしょうか。ここのアサギマダラは、調査はしていませんが、対岸の四国の高知県から、40 km弱の距離、海を渡って来ているようです。大分県では姫島がアサギマダラの訪れる地域として全国的に有名ですが、佐伯市鶴見鶴御崎も今後、ヒヨドリバナが多くなりアサギマダラの訪れる個体数が増加すれば姫島にも負けない有名な土地になると思います。また、アサギマダラは、捕獲したチョウの翅の半透明部分に捕獲場所・年月日・連絡先などをマジックインキで記入（マーキング）し、個体識別を行い、放蝶し再捕獲することでその個体の移動距離などを調べることが盛んに行われています。まずは、佐伯市鶴見先鶴御崎でも春5月頃と秋10月頃にマーキングする会を開いてはどうでしょうか。人をあまり恐れることのない大きなチョウがふわりふわり飛んで来て、ヒヨドリバナで給蜜し休息し、その後どこまで飛んでいくのかを想像するのも楽しいとは思いませんか。



4. 佐伯市木立の湿地帯のトンボたち

佐伯市木立（きたち）の湿地帯と溜め池には、多くのトンボの仲間が生息しています。それは、冬でも水が豊富で溝や池が干上がらず成虫やヤゴの餌が豊富なためです。佐伯市木立で見られる珍しいトンボの仲間としてはネアカヨシヤンマとキイロサナエが生息しています。2種とも個体数が少なくあまり人目に触れる事はないですが、筆者は、佐伯市木立の水田の溝を冬にさらって両種のヤゴを見つけることができました。ネアカヨシヤンマは国の定めるRDでは絶滅危惧Ⅰ類に分類され、キイロサナエも近年個体数が減少している貴重なトンボです。そのほかこの地域では、オニヤンマ、マルタンヤンマ、ギンヤンマ、

ミルンヤンマ、クロスジギンヤンマ、コオニヤンマ、タバサナエ、ヤマサナエ、ベニトンボ、タイリクアカネ、マユタテアカネ、ヒメアカネ、ナツアカネ、リスアカネ、マイコアカネ、ミヤマアカネ、ネキトンボ、ショウジョウトンボ、コノシメトンボ、ハラビロトンボ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、ハネビロトンボ、オオヤマトンボ、コヤマトンボ、キイトトンボ、ベニイトトンボ、ホソミイトトンボ、アオモンイトトンボ、アジアイトトンボ、セスジイトトンボ、クロイトトンボ、ホソミオツネイトンボ、オオアオイトトンボ、モノサシトンボ、ハグロトンボ、ミヤマカワトンボが見られました。この中で、ベニイトトンボは、その発生場所が冬に水が涸れてしまい、次の年には見ることができませんでした。トンボ類にとっては冬の越冬場所の確保（水の確保）が大切なことがうかがわれます。この地域がこのまま環境が保全されることを祈っています。トンボではありませんが、この木立地区には、ハチの仲間のアメリカジガバチが生息しています。区画整理した水田の中を流れている水路の脇にある東屋の梁に巣があり、また、成虫も確認できました。



タバサナエ



セスジイトトンボ



マルタンヤンマ



ベニトンボ



セスジイトトンボ



アメリカジガバチの巣

5、佐伯市には、深島（ふかしま）、屋形島（やかたじま）など、多くの島があります。その中で、佐伯湾に浮かぶ大入島（おおにゅうじま）の調査では、全国的に数が減り局地的な分布を示すベニイトトンボが確認できました。林に囲まれた、人工的に作られたプールのような廃墟に水がたまりホテイアオイが水面を覆っている場所がありました。その場

所を中心として、多くのベニイトトンボが確認（確認できただけで 30 数頭）できました。交尾している雄雌も何組も確認でき、ベニイトトンボの繁殖場所としても大変よいところのようです。他のトンボ類は、カトリヤンマが確認できただけでした。



ベニイトトンボ



生息地

《引用文献》

寺山武 (1979)	1978～1979 年の迷蝶記録	二豊のむし, (4) : 62
河野唯雄他 (1990)	タテハモドキを直川村で採集した	二豊のむし, (23) : 8
堤内雄二 (1991)	アオタテハモドキを大分県で採集	二豊のむし, (27) : 10
野崎敦士 (2001)	大分県にてアマミウラナミシジミを採集	二豊のむし, (38) : 30
三宅武 (2001)	アマミウラナミシジミの追加記録	二豊のむし, (38) : 30
真柴茂彦 (2002)	カバマダラの目撃記録	二豊のむし, (39) : 22
三宅武 (2005)	迷蝶アマミウラナミシジミを三たび採集	二豊のむし, (42) : 22
三宅武 (2005)	カバマダラ 2 年に亘り発生	二豊のむし, (42) : 22
瀬戸屋耕二 (2006)	佐伯市波当津でタテハモドキを確認	二豊のむし, (43) : 34
三宅武 (2006)	佐伯市波当津でアマミウラナミシジミを採集	二豊のむし, (43) : 34
三宅武 (2007)	大分県初記録のリウキュウムラサキ	二豊のむし, (45) : 32-33
玉嶋勝範他 (2010)	大分県初記録のクロマダラソテツシジミ (2009 年)	二豊のむし, (48) : 99
玉嶋勝範 (2010)	アマミウラナミシジミを佐伯市鶴御崎で採集	二豊のむし, (48) : 106
柳迫欽也 (2010)	佐伯市の 2 カ所で確認したカバマダラの記録	二豊のむし, (48) : 106
三宅武 (2010)	県南部でのタテハモドキの発生確認	二豊のむし, (48) : 109
玉嶋勝範 (2011)	大分県における迷蝶 6 種の記録 (2010 年)	二豊のむし, (49) : 100
羽田孝吉他 (2012)	ウスキシロチョウの目撃記録	二豊のむし, (50) : 83
玉嶋勝範 (2013)	大分県における 2013 年の記録	二豊のむし, (52) : 94
川野政喜 (2013)	大分県佐伯市蒲江でカバマダラを目撃	二豊のむし, (52) : 95